

ADVANEX NOW

第74期 上半期の業績について

トピックス

- アメリカ工場のテネシー州移転
- キヤノン株式会社様から
Procurement Partnerの認定を受ける





「情報の共有化」と「課題の顕在化」を徹底し、ガバナンスとリスクマネジメントを強化していきます。

株式会社アドバンクス
代表取締役社長

かとう せいや

加藤 清也

Q1. 2022年3月期上期（4-9月）の業績を振り返りましてどのように評価されますか。

4月から7月までは前期下期の勢いが続き好調に推移していましたが、8月に入ると半導体やコロナを起因とする東南アジアからの自動車部品などの供給不足により自動車の生産数が減少、さらに原材料価格の高騰により収益も圧迫されるなど、一転してブレーキがかかりました。それでもコロナの影響が大きかった前上期に比べると大幅に改善しました。また、売上高、営業利益、経常利益は通期業績予想の半分を達成できたことからますますの結果であったと評価しています。

Q2. コロナの影響は如何でしたでしょうか？

働き方が大きく変わりました。営業活動においては顧客訪問が出来なくなりましたのでウェブミーティングを最大限活用するなど、変化に乗り遅れないように取り組んできました。このような改革を進められたことから、今後進めていくDX（デジタルトランスフォーメーション）やIoT、AIにも適応しやすい体制になってきたのではないかと思います。コロナがあったからこそ隠れていた問題点や課題が浮き彫りとなり、改善を図るきっかけとなった一方で、グローバルでの取り組みにおいては未だに海外出張や直接支援が制限されるなど活動の障害になっています。コロナによる影響はプラスの面とマイナスの面の両方がそれぞれあったと思います。

Q3. 社長に就任されてから1年たちましたが、一番の変化点は何でしょうか？

スローガンに「情報の共有化」と「問題・課題の顕在化」を掲げ徹底させてきましたので、客観的事実をしっかりと捉え、それを真摯に受け止めた上で、スピーディーに対応・決断する意識が浸透したと思います。例えば、当社は従来、営業・技術・製造部門の間で製品や技術に対する評価や認識に食い違いが生じていましたが、部門合同で分科会を開催し、アイテム毎に分析を行いました。それにより全部門が共通した認識を持つに至り、開発や改善の方向性、売り込み方のベクトルを合わせることができました。また、海外子会社のガバナンス強化は相当進みました。従来当社は現地のオペレーションに経営全

てを任せる方針でしたが、各子会社に本社から幹部社員を送り込み、自主性は重んじつつも連携とガバナンスを強化する体制が構築できました。

Q4. 新中期経営計画を公表されましたが 進捗状況は如何でしょうか？

新中期経営計画のテーマは「ガバナンス体制の強化」、「収益構造の強化」、「財務体質の強化」の3つですが、取り組みは着実に進んでいます。新中期経営計画は「次の成長に向けて力を貯める期間」と位置付けており、拡大よりもむしろ今ある拠点や体制・体質の強化・改善が目的となっています。HPに開示している11月25日開催の決算説明会資料にその詳細を説明していますので、是非当社HPにアクセスしお読みいただきたいと存じます。

Q5. メキシコ工場、チェコ工場、 インドネシア工場やインド工場などの “創業赤字”が続いている新設工場の 状況について教えてください。

メキシコ工場は設立から4年が経過し、ようやく本格量産の局面となりましたが、線ばね、板ばね、インサートモールドなど複数の生産体制を一気に立ち上げたことにより新たな課題も発生しました。それに対しては直ちに支援部隊を派遣し、改善の道筋をつけましたので、今期中には月次ベースでブレイクイーブンまで改善すると見えています。インドネシア工場は徹底的に現状分析を行った上で、改善項目に優先順位をつけて着実に取り組んできたことが奏

功し、黒字化の目途が立ちました。チェコ工場とインド工場はスタートから規模も小さく、コロナが少し落ち着きグループ間の生産移管が進めば確実に黒字化できると見えています。

Q6. コーポレートガバナンスコードなどで 上場会社はESGやSDGsなど サステナビリティへの取り組みが 求められていますが、貴社はどのように お考えですか？

昨今、ESGやSDGsは機関投資家の指標としても重要視されるようになってきており、当社のビジネスを通じてどのような貢献が出来るかを考えてきました。もちろん生産活動における電力消費やCO2削減なども今後積極的に取り組ましますが、幸い当社ビジネスの多くがSDGsの17項目に関連していることから、それぞれの目標値を定めて、成長戦略に織り込み、ビジネスを通してESG、SDGsに貢献していくものと考えています。

Q7. 最後に株主の皆様メッセージを お願いします。

新中期経営計画のテーマを着実に進め、体質の強化を図り、次の成長へ向けて体力を蓄える一方、ESGやSDGsをビジネスの根幹に取り込んだサステナビリティ経営を目指すなど、永続的な発展経営と企業価値の向上を目指してまいりますので、引き続きのご支援とご指導を頂戴したくよろしくお願い申し上げます。

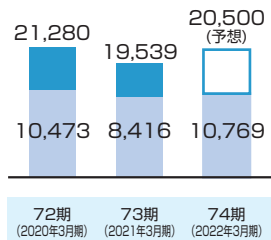
業績ハイライト

業績ハイライト

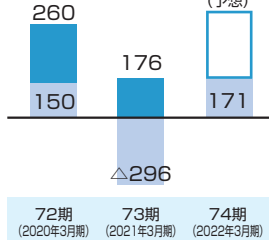
■ 第二四半期累計 ■ 通期

(単位：百万円)

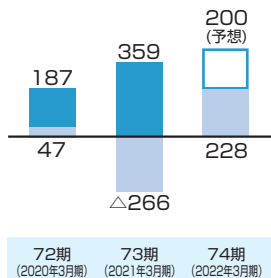
売上高



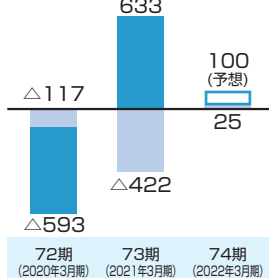
営業利益



経常利益



当期純利益



業績総括

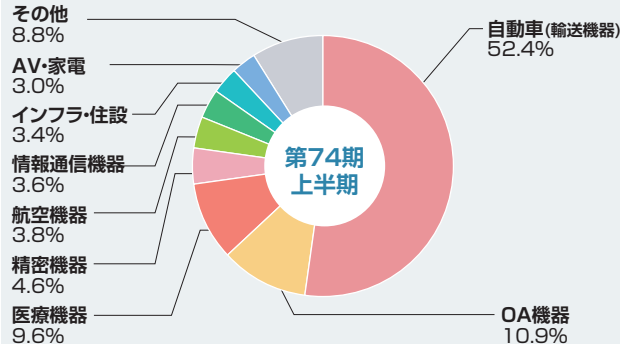
当期の当社グループの業績は下記のようにになりました。

- 売上高 107億69百万円
- 営業利益 1億71百万円
- 経常利益 2億28百万円
- 当期純利益 25百万円

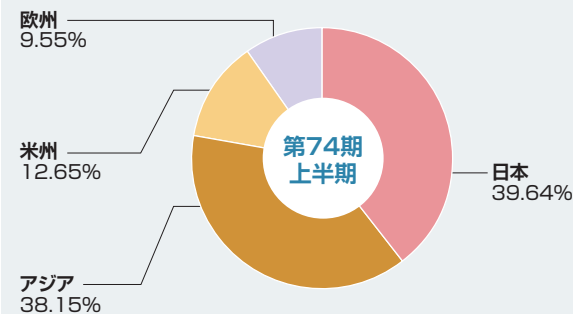
74期第2四半期連結累計期間の業績につきまして、売上高は前年同四半期比28.0%増の107億69百万円となり、営業利益は1億71百万円（前年同四半期は2億96百万円の損失）、経常利益は2億28百万円（前年同四半期は2億66百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益は25百万円（前年同四半期は4億22百万円の損失）となりました。半導体や材料不足等の影響による販売機会の損失や、米国における工場移転費用の計上、メキシコにおけるプロジェクト立ち上げコストの増加などのマイナス要因はあったものの、コロナ禍の影響が大きかった前年同四半期比では大幅に業績が改善しました。

売上高構成比

市場別売上高構成比

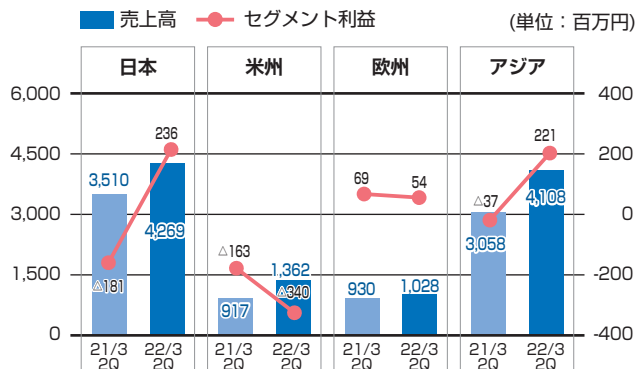


地域別売上高構成比



※各売上高構成比は、小数点第2位以下を四捨五入しております。

所在地別売上高・セグメント利益



連結貸借対照表(要約)

(単位: 百万円)

	第73期 2021年3月31日現在	第74期 第2四半期 2021年9月30日現在
資産の部		
流動資産	12,143	12,206
固定資産	11,587	11,867
有形固定資産	10,859	11,053
無形固定資産	62	76
投資その他の資産	665	738
資産合計	23,730	24,074
負債の部		
流動負債	9,970	10,300
固定負債	7,436	7,566
負債合計	17,407	17,867
純資産の部		
株主資本	6,355	6,344
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	250	250
利益剰余金	5,201	5,172
自己株式	△96	△77
その他の包括利益累計額	△55	△145
新株予約権	24	8
純資産合計	6,323	6,207
負債純資産合計	23,730	24,074

連結損益計算書(要約)

(単位: 百万円)

	第73期 第2四半期累計 自2020年4月 1 日 至2020年9月30日	第74期 第2四半期累計 自2021年4月 1 日 至2021年9月30日
売上高	8,416	10,769
売上原価	6,681	8,370
売上総利益	1,735	2,399
販売費及び一般管理費	2,032	2,227
営業利益又は営業損失(△)	△296	171
営業外収益	151	198
営業外費用	121	141
経常利益又は経常損失(△)	△266	228
特別利益	1	1
特別損失	64	39
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△329	190
法人税等	92	165
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△422	25

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位: 百万円)

	第73期 第2四半期累計 自2020年4月 1 日 至2020年9月30日	第74期 第2四半期累計 自2021年4月 1 日 至2021年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	415	103
投資活動によるキャッシュ・フロー	△245	△1,231
財務活動によるキャッシュ・フロー	△357	586
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,766	2,562

アメリカ工場のテネシー州移転

当社は、1971年に連結子会社であるAdvanex Americas, Inc.(旧Kato Spring USA)をアメリカのカリフォルニア州に設立し、同地において精密ばねの製造・販売のビジネスを行ってまいりました。一方、カリフォルニア周辺の人件費、固定費の高騰や主要顧客も州外へ移転していることなどを踏まえ、中西部や南部への移転を検討してきました。テネシー州は、カリフォルニア州に比べ人件費などの固定費が安いこと、今後注力していく自動車や医療関連顧客の拠点が近く輸送費が削減できることに加え、顧客へのアプローチがし易くなるなど有利な条件が揃っています。また、新工場では自動車及び医療向けなど高付加価値製品に注力する一方、その他製品の一部はテネシー州より更に製造固定費が低いメキシコ工場に移管するなど当社グループにおける全体最適化も図っていきます。



キャノン株式会社様から Procurement Partnerの認定を受ける

キャノン株式会社様からProcurement Partnerの認定を受けました。Procurement Partnerとは海外も含めたキャノングループのワールドワイドのサプライヤーの中から特にQCDE(Eは環境(Environment))が優れた百社に対し与えられるものであり、当社はこれを授与されたことで、グローバルにおいてキャノングループのトップクラスのサプライヤーであると評価されました。



会社名	株式会社アドバネクス(Advanex Inc.)
本社所在地	〒114-8581 東京都北区田端六丁目1番1号
設立	1946年11月
資本金	1,000百万円
事業内容	精密ばね等の製造販売
従業員数	連結：1,971名 単体：379名

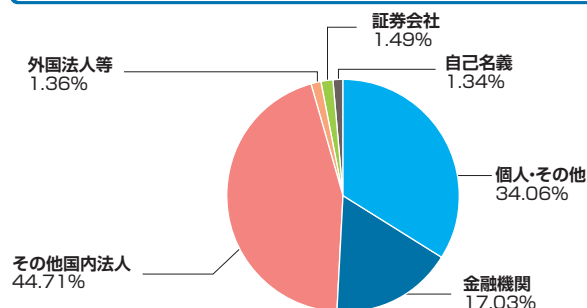
株式の状況

(2021年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数	12,500,000株
発行済株式の総数	4,153,370株
株主数	5,466名

所有者別株式分布

(2021年9月30日現在)



大株主

(2021年9月30日現在)

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	327	7.89
A A A 株式会社	300	7.22
スマート有限会社	292	7.05
加藤雄一ホールディングス株式会社	280	6.75
アーク株式会社	205	4.94
A R T 株式会社	200	4.82
株式会社三菱UFJ銀行	198	4.79
エース株式会社	142	3.42
A S A D A 株式会社	133	3.21
スマイル株式会社	94	2.27

(注) 当社は自己名義株式を44,808株(1.08%)保有しています。
また、持株比率は自己株式を含めて計算しております。
各持株比率は小数点第3位以下を四捨五入して計算しております。

株式インフォメーション

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金はありません。

株主名簿管理人 および特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
-------------------------------	-----------------------------------

株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
-------------------	---

郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
--------	--

電話照会先	☎ 0120-782-031
-------	----------------

インターネットホームページURL

<https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

公告方法 当社のホームページに掲載します。

<https://www.advanex.co.jp/ir/public-announcements/>
ただし、事故その他やむを得ない事由がある場合、日本経済新聞に掲載します。

上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部（証券コード：5998）
---------	--------------------------

株主総会決議通知の発送を取り止め、本総会の結果は当社ホームページ（<https://www.advanex.co.jp/ir/>）に掲載させていただく予定です。

マイナンバー制度に関する手続きについて

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係の手続きで必要となります。このため、株主さまからお取引の証券会社等へマイナンバーをお届出いただく必要がございます。

株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書には株主さまのマイナンバーを記載し、税務署へ提出いたします。

主な支払調書

- 配当金に関する支払調書
- 単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

マイナンバーのお届出に関するお問い合わせ先

- 証券口座にて株式を管理されている株主さま
お取引の証券会社までお問い合わせください。
- 証券会社とのお取引がない株主さま
下記フリーダイヤルまでお問い合わせください。
三井住友信託銀行 証券代行部 ☎ 0120-782-031